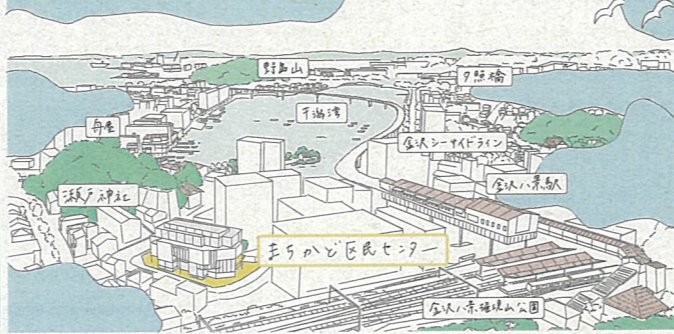


金沢区の人々の活動とその活力が溢れ出す建物の佇まい

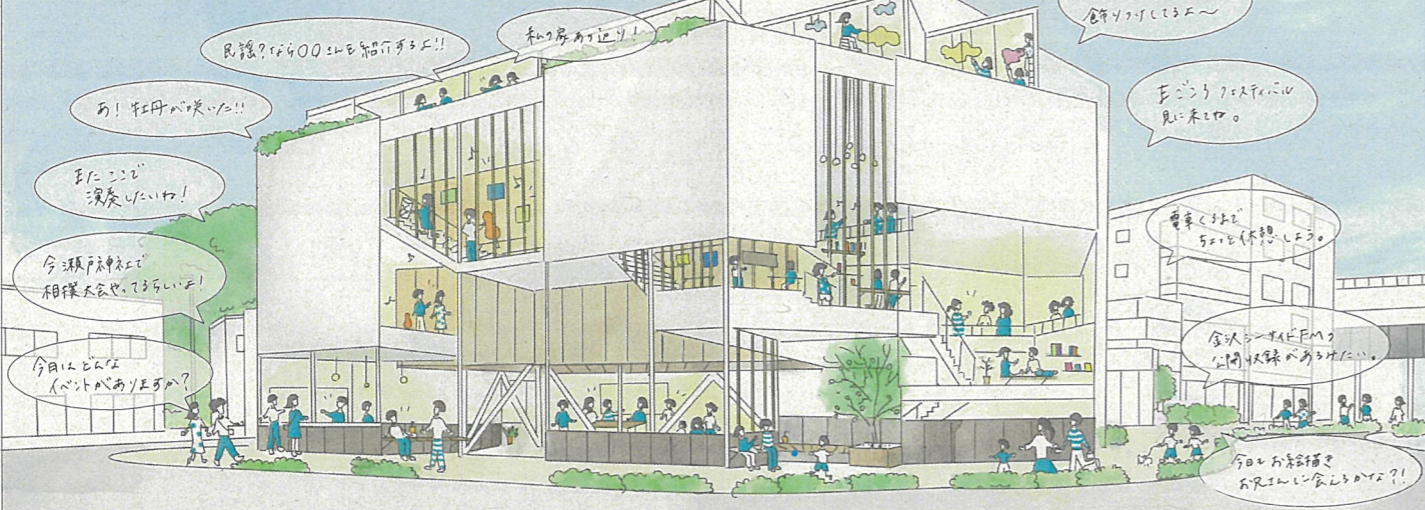
(1) 周辺環境と調和したデザインの提案

暮らしやすいまちとして愛される金沢区には、豊かな自然や歴史資源とともに地域貢献の強い熱意を持った区民による文化・芸術活動が数多くあります。私たちは、区民の活動が集まり、つながる、金沢区らしい文化センターを提案します。

- 金沢区の歴史を引き継ぐ、文化・芸術のランドマーク
日々の暮らしと文化・芸術活動の重なりあう、区民の「まちかど」
文化・芸術活動の出会いや創造・発信の場をつくる「みちばた空間」



まちかど区民センター



ア 気軽に立ち寄れる雰囲気 イ ガイドラインに則した、金沢区らしい魅力的な外観

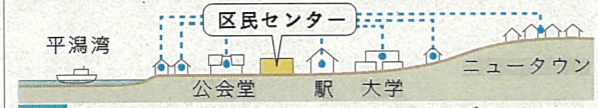
- 1 発信拠点にふさわしい外観
2 駅周辺の景観との調和
3 駅方向へ開いたファサード

大小多様な活動の場が連続するひらかれた計画 (2) 施設利用者の利便性や快適性の提案

ア 利用者が使いやすい施設の考え方

1 まちと連続する身近な文化・芸術の場所

まちから連続した賑わいの道を施設の隅々まで行き渡らせ、まちの各地で展開する大小様々な地域活動を受け入れることのできる計画とします。

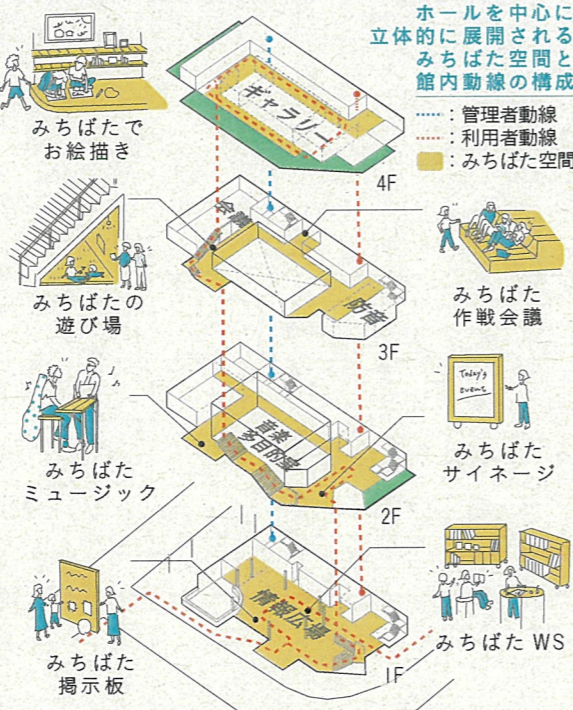


2 様々な活動の拠り所、「みちばた空間」

一階から連続する活動の居場所を「みちばた空間」と名付けます。様々な大きさ・設えを用意し全館を巡るよう配置します。思い思いの居場所を見つけ、利用者が隅々まで使い倒せる施設とします。

3 多様なニーズに応える一体利用

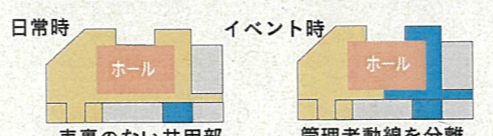
「みちばた空間」は各諸室と一体で利用することで、諸室の利用方法の幅を拡げ、多様なニーズにも対応します。



イ 管理しやすい施設の考え方

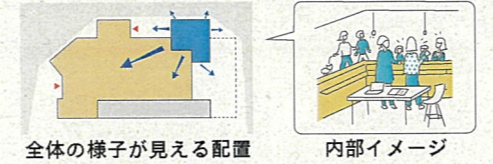
4 利用者・管理者動線の明快な分離

日常時は利用者が全館を使える表裏のない共用部計画とし、イベント時には来場者と運営者の動線を明確に分離し、管理運営がしやすい計画とします。



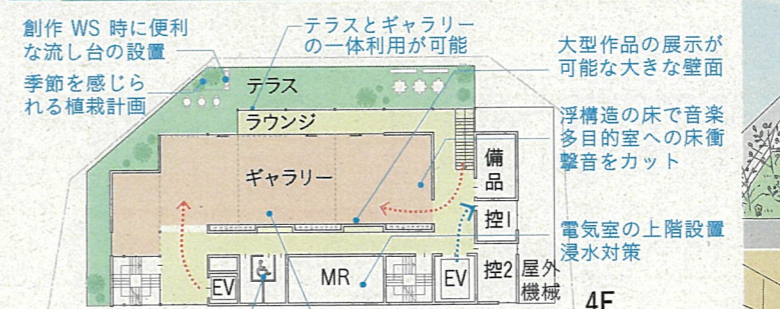
5 管理のしやすい配置計画

一階全体の様子が見える位置に事務室を配置します。また事務室を通りに面した場所に配置することで、通りを行き交う区民とスタッフとの日常的なコミュニケーションの機会をつくれます。

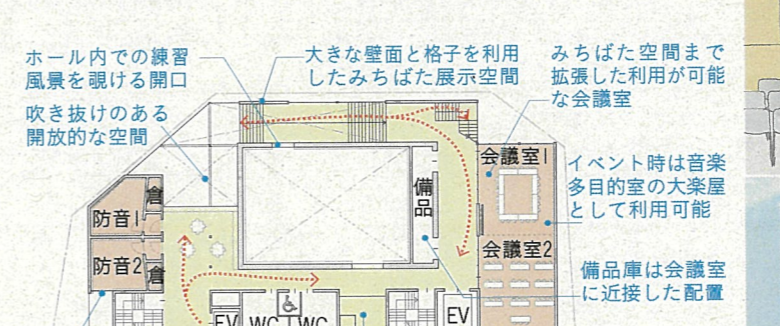


ア 利用者が使いやすい施設の考え方 / イ 管理しやすい施設の考え方

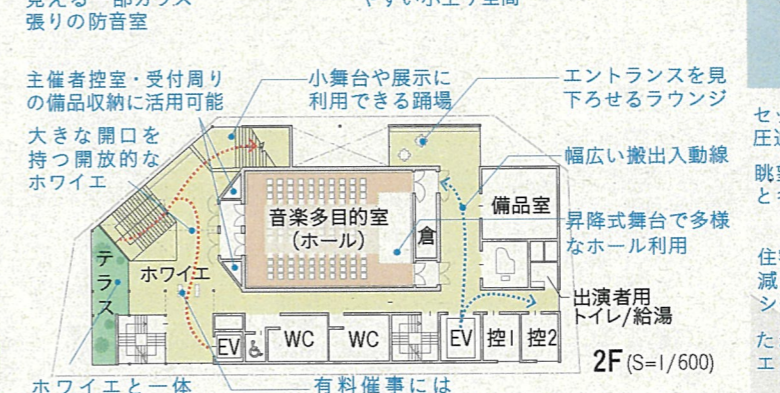
6 全館同時利用可能な平面計画



全ての階に多目的トイレを設置する 可動間仕切で多様な展示空間を実現



ホール内での練習風景を覗ける開口 吹き抜けのある開放的な空間

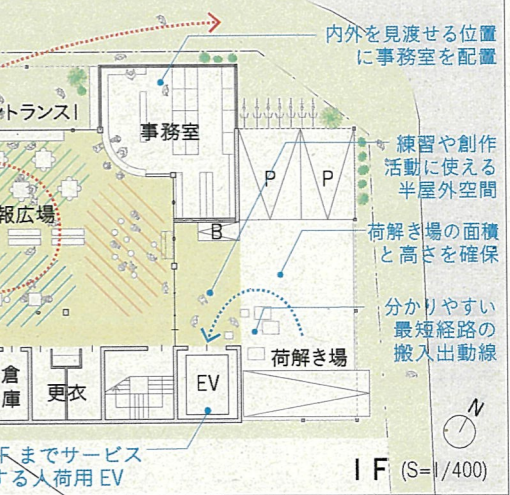
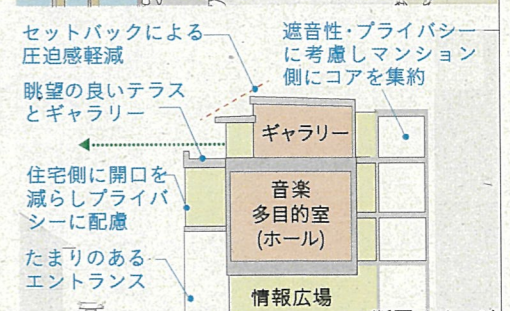
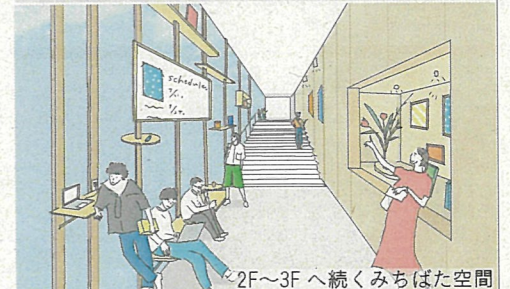
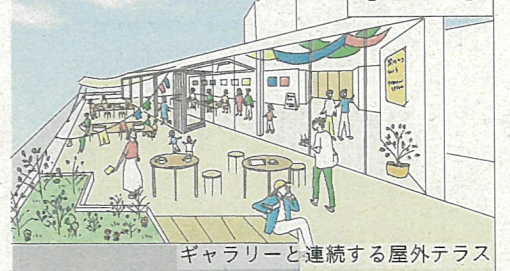
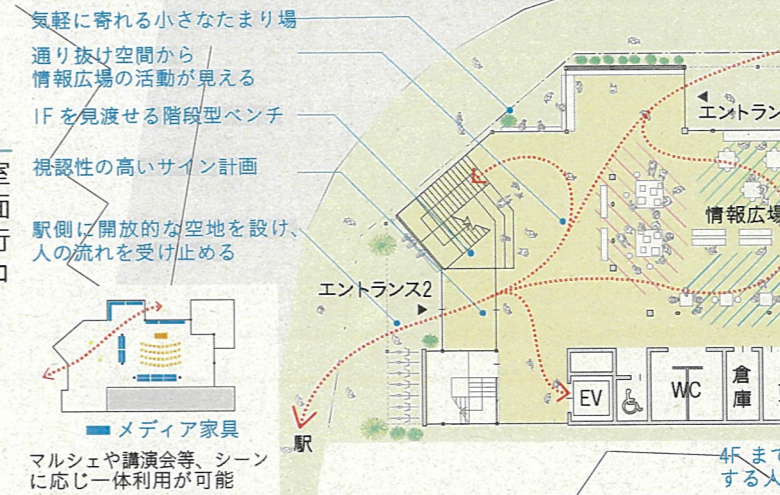


ホワイエと一体利用可能なテラス 有料催事にももぎり設置可能

ウ 一階の機能配置や設えについての考え方

7 様々なシーンに対応する一階ロビーの作り方

二方向に入口を設け、気軽に通り抜けや休憩が可能なまちと連続した一階をつくります。また一階全体の場を情報発信機能を持つ「メディア家具」によってシーンに応じた空間を設え、イベント時や創作活動等の様々な利用シーンの中で自ずと暮らしの情報が得られる「情報広場」を提案します。





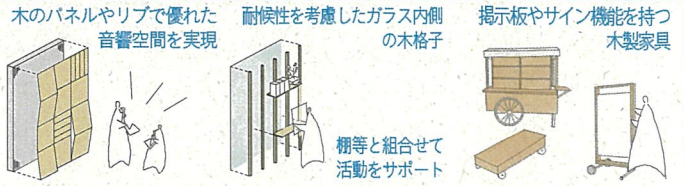
地域や社会状況を的確に把握し、リアルタイムに計画へ反映させる高い設計エンジニアリングでまちかど区民センターを実現します。

043

合理的な空間構成および効果的な木材利用による環境建築を目指します (3) 環境負荷低減及び省エネルギー等の考え方についての提案

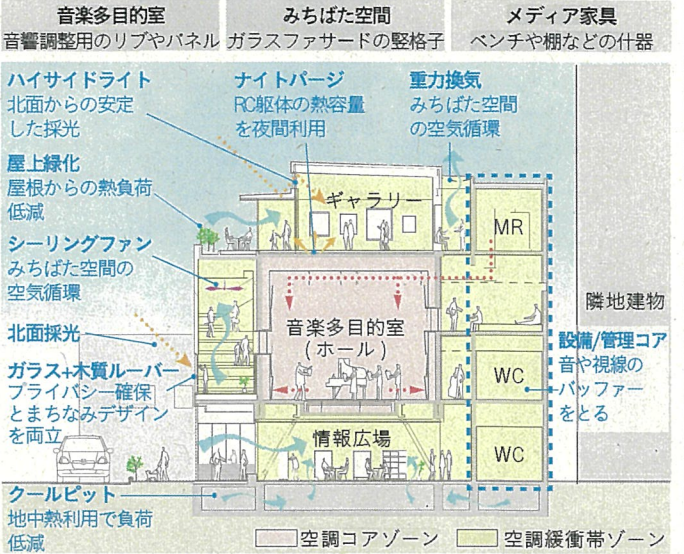
ア 効果的な木材の活用方法などの提案

- 一般流通の小径製材や合板等を活用し、コストバランスを取りながら内装を中心に見える木材利用を図ります。
- 音楽多目的室内部は音響調整用のリブやパネルに木材を採用し、親しみと機能性を兼ね備えた空間とします。
- ガラスファサードの内側等に小径木材の堅格子を掛け、まちなみデザインと耐候性・耐久性を両立します。
- ベンチや家具など手に触れられる造作に木材を採用し、誰もが温もりを感じ安心安全に活動できる場とします。



イ 環境負荷低減策についての提案

- 建物中心に位置する重要諸室を“空調コアゾーン”、周囲の共用部を“空調緩衝帯ゾーン”と設定し、空調コアゾーンの安定した温熱環境を確保しつつ、空調室の冷温熱は無駄なく周囲の空間にも取り込みます。
- 日中は卓越風を考慮した自然通風と重力換気を図りつつ夜間は海からの涼やかな外気を導入し、ナイトパージでRC躯体を蓄冷することで空調負荷を大幅に軽減します。
- 外部による影響が大きい東西面には非空調室や使用頻度の低い諸室等を配置し空調負荷の低減を図るとともに、北面には開口を積極的に配置することで自然採光によるギャラリ等の良質な環境を実現します。
- クールピット利用等、未利用エネルギーの活用を図りつつZBE-ready(BE=0.5)の達成を目指します。



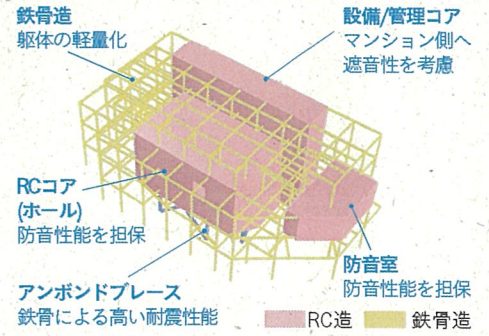
費用対効果に優れた建築計画や適材適所の構造計画によりコスト削減を図ります (4) コスト削減の考え方についての提案

ア イニシャルコスト削減の考え方

- 遮音性能を最も経済的に確保できるRC壁により音楽多目的室/防音室を構築し、コンパクトなRCコアと組み合わせることで効率的に高い耐震性能を実現します。その他の空間は鉄骨造による均等フレームを繰り返すことにより、施工性や職人不足に配慮するとともに、軽量化を図り基礎のコストを抑制します。
- 全館避難安全検証法による排煙設備、堅穴区画の免除を検討します。

イ ライフサイクルコストの削減に向けた具体的方策

- 鉄骨造部分はリサイクル材である電炉材を採用すると共に、解体の容易性に配慮したボルト接合を基本とすることによりLCCの低減を図ります。
- メンテナンスや更新に配慮した設備スペースの確保や、高耐候性・高耐久性材料、汎用品の採用を検討し、施設修繕・更新費用の低減を図ります。



地元事務所と各種専門家のチームにより対話を重視しながら業務にあたります (5) 業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制についての提案

ア 関係者間の連携等をどう行おうかなどの取組体制

- 横浜市と建築・街づくりを複数の業務で協働してきた応募事務所と、金沢区在所で区民の活動に根差した設計・街づくり活動を行う設計事務所を中心にチームを構成し、発注者や利用する区民の意向を対話で拾い上げ、建物完成後の活用フェイズまで視野に入れながら業務を遂行します。
- 構造、設備、音響等は複数の建築を協働で実現してきた専門家がエンジニアリング担当として従事します。

イ 成果物の品質向上を図るための方法

- 設計初期段階で要求条件を集中的に整理するフロントローディング型の課題解決と与条件の正確な把握で課題の先送りや手戻りを最小限に抑えます。意匠・構造・設備の設計会議を定例化し、コスト、スケジュール管理の徹底を含め、設計内容及び成果物の品質向上を図ります。

ウ 積算数量の拾い忘れや過算を防止し、精度向上を図るための方法

- コスト情報や調達工期に関する情報を収集・分析しながら、実施設計段階で大きなコスト差による手戻りが生じないように、基本設計の進捗に応じて躯体、外装、内装、設備などの主要工事の概算チェックを行いながら設計業務を遂行します。また、営繕工事積算チェックマニュアル等も活用し、積算業務の精度向上を図ります。

エ スケジュールの組立て方や管理方法、設計・工事監理体制などの業務の進め方

- チーム内にプロジェクトマネージャーを配置し、業務スケジュールにおける全体工程、計画～設計工程、申請等協議手続き工程など必要となる複数の工程を検討し、各工程内や工程間のクリティカルパスを明確にした上で、意匠・構造・設備・音響等の各分野の進捗管理を綿密に行い、工程管理を徹底します。また、工事監理段階では、品質監理担当を加え、高い品質確保を目指します。

